

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3929878号
(P3929878)

(45) 発行日 平成19年6月13日(2007.6.13)

(24) 登録日 平成19年3月16日(2007.3.16)

(51) Int. Cl.

F I

B 6 5 D 77/00 (2006.01)
B 6 5 D 33/00 (2006.01)
B 6 5 D 33/02 (2006.01)
B 6 5 D 85/36 (2006.01)

B 6 5 D 77/00 B
 B 6 5 D 33/00 A
 B 6 5 D 33/00 C
 B 6 5 D 33/02
 B 6 5 D 85/36 A

請求項の数 6 (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2002-331800 (P2002-331800)
 (22) 出願日 平成14年11月15日(2002.11.15)
 (65) 公開番号 特開2004-161354 (P2004-161354A)
 (43) 公開日 平成16年6月10日(2004.6.10)
 審査請求日 平成15年10月15日(2003.10.15)

(73) 特許権者 000241186
 朋和産業株式会社
 千葉県船橋市習志野4丁目11番10号
 (74) 代理人 100074332
 弁理士 藤本 昇
 (74) 代理人 100114421
 弁理士 栗丸 誠一
 (74) 代理人 100114432
 弁理士 中谷 寛昭
 (74) 代理人 100117204
 弁理士 岩田 徳哉
 (72) 発明者 白井 直人
 千葉県船橋市習志野4丁目7番8号 朋和
 産業株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 食品用の包装袋

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

重ね合わされている表フィルムおよび裏フィルムの両側縁と一端側とがシールされ、かつ他端側が包装される食品の挿入口となる開口部とされ、包装された食品を取り出す取出し面と、該取出し面の両側に屈曲した状態で連続する一対の側面と、該一対の側面に屈曲した状態で連続し、かつ前記取出し面と対向する正面とが形成されるような食品の包装形態を採る袋本体と、

前記一対の側面の領域の外面にそれぞれ貼着される一対の板状のプロテクタと、

前記正面の領域の外面に配置されるフロントボードとが備えられ、

前記一対のプロテクタとフロントボードとが一体に形成されていることを特徴とする食品用の包装袋。 10

【請求項2】

前記袋本体は、裏フィルムに取出し面、表フィルムに正面、裏フィルムと表フィルムに跨って一対の側面がそれぞれ形成され、

前記プロテクタは、前記側面の領域の内、表フィルムの外面にのみ貼着され、

前記一対のプロテクタとフロントボードとは、前記表フィルムと裏フィルムとが重ね合わされている状態で、平面状態となるように構成されていることを特徴とする請求項1に記載の食品用の包装袋。

【請求項3】

前記プロテクタは、前記袋本体の側面の領域の全面に接合する大きさに形成されている 20

ことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の食品用の包装袋。

【請求項 4】

前記フロントボードは、窓穴部が形成されていることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか一つに記載の食品用の包装袋。

【請求項 5】

前記フロントボードには、前記表フィルムと裏フィルムとがシールされた一端側から突出する装飾体が接合されていることを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれか一つに記載の食品用の包装袋。

【請求項 6】

前記袋本体の取出し面には、該取出し面を形成しているフィルムを引き裂くための切断手段が設けられていることを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれか一つに記載の食品用の包装袋。

10

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、サンドイッチやカステラなどの食品（以下、「サンドイッチ」という。）を、袋状にシールした表フィルムおよび裏フィルムによって包装する食品用の包装袋に関し、詳しくは、包装されたサンドイッチが外力を受けても変形しにくいようにした食品用の包装袋に関する。

【0002】

20

【従来の技術】

直角三角形のサンドイッチは、例えば図 4 ないし図 6 に示すような食品用の包装袋に包装されて販売されている。この食品用の包装袋は、図 4 に示すように重ね合わされている台形状の表フィルム 110 と裏フィルム 120 との両側縁 111, 121 が熱によって極細にシールされ、幅の細い一端（以下、「上」という。）側が帯状のシール部 101 によって封止され、幅の広い他端（以下、「下」という。）側が開口部 102 によって開口可能とされている。開口部 102 を開口しやすいようにするため、表フィルム 110 は図 4 の点線に示すように裏フィルム 120 よりもわずかに短く形成され（図 4 では裏フィルム 120 を表フィルム 110 の上に重ねて描いてある。）、あるいは裏フィルム 120 が表フィルム 110 よりもわずかに短く形成されている。

30

【0003】

このような表フィルム 110 と裏フィルム 120 の材質は、食品包装用のプラスチックフィルムであれば特定するものではないが、低コストで酸素バリア性などの特性に優れたポリプロピレンなどが一般的に使用されている。さらに、両フィルム 110, 120 の厚さは、開封性や経済性などの観点から 20~30 μm とされている。

【0004】

そして、シール部 101 から上側は、表フィルム 110 と裏フィルム 120 が重ね合わされた突出片 112, 122 とされ、該突出片 112, 122 の周囲が熱によって極細にシールされている。このような突出片 112, 122 の上縁は円弧状や波形状のようなデザイン性に富んだ形状とされることがある。

40

【0005】

さらに、裏フィルム 120 の突出片 122 には、逆 U 字形の切込線 123 が入れられ、該切込線 123 の内側が舌片状の摘み片 124 とされている。表フィルム 110 と裏フィルム 120 とは単に重ね合わされているだけであるから、摘み片 124 は摘み上げることができる。そして、裏フィルム 120 の内面には、この摘み片 124 からシール部 101 を交差して開口部 102 付近まで、裏フィルム 120 を引き裂くための細い帯状の切断手段（以下、「カットテープ」という。）103 が貼り付けられている。

【0006】

このような食品用の包装袋は、表フィルム 110 と裏フィルム 120 とが重ね合わされた状態から、図 5 に示すように表フィルム 110 と裏フィルム 120 とが直角に折り曲げら

50

れて角部 115, 125 が形成され、開口部 102 が長方形状に開口されることにより、側面がほぼ三角形の袋状の空間 104 が形成される。この空間 104 内にサンドイッチ S が収容され、開口部 102 側の表フィルム 110 と裏フィルム 120 は、図 6 に示すように折り込まれて底部 105 とされ、該底部 105 は粘着テープ（図示せず）などによって封緘され、サンドイッチ S が包装される。

【0007】

そして、包装されたサンドイッチ S を食するには、裏フィルム 120 の突出片 122 に設けられた摘み片 124 を摘んで真っ直ぐ下方向へ引っ張ることにより、図 6 に示すようにカットテープ 103 がシール部 101 の裏フィルム 120 を裁断し、さらに真っ直ぐ下方向に引っ張ることにより、裏フィルム 120 を下方へ引き裂く。裏フィルム 120 が底部 105 の方まで引き裂かれることにより、食品用の包装袋は開封され、サンドイッチ S を引き裂かれた裏フィルム 120 側から取り出すことができる。

10

【0008】

なお、重ね合わされた 2 枚のフィルム的一方のフィルムに、2 本のカットテープが摘み片から開口部に向って逆 V 字形に貼り付けられたサンドイッチ用包装具が実用新案登録第 3052648 号公報に開示されている。

【0009】

【特許文献 1】

実用新案登録第 3052648 号公報

【0010】

20

【発明が解決しようとする課題】

ところで、ポリプロピレンのような食品包装用のプラスチックフィルムは、密封性が発揮され、またカットテープ 103 によって引き裂かれて包装されたサンドイッチ S を容易に取り出すことができるという特長を有していることから食品用の包装袋の表裏フィルム 110, 120 として使用されている。

【0011】

そして、表裏フィルム 110, 120 は開封性や経済性などの観点から 20~30 μ m の厚さの食品包装用のプラスチックフィルムが使用され、しなやかさを有している。

【0012】

しかし、サンドイッチを包装するとき、搬送するとき、あるいは陳列するときなどの様々な状況下で、サンドイッチは把持され、あるいは収納箱のエッジなどに勢いよく突き当たるなどの外力が加えられることがあり、表フィルム 110 および裏フィルム 120 が撓曲し、サンドイッチの側面が押圧され、あるいは角部が丸くなるなど変形することがある。すると、サンドイッチは外観が損なわれ、商品価値が低下し、売れ残りが生じることもある。このことは、実用新案登録第 3052648 号公報に開示されたサンドイッチ用包装具においても同様である。

30

【0013】

このため、サンドイッチが外力を受けても変形しないように、サンドイッチを紙製の箱内に収納し、販売される場合もある。しかし、紙製の箱では、密閉性が不十分で、サンドイッチが乾燥しやすいため、品質を保持することができないだけでなく、コストがアップするといった問題がある。

40

【0014】

そこで、本発明は密封性、開封性およびコストの面において優れているだけでなく、包装されたサンドイッチが外力を受けても変形しにくいようにした食品用の包装袋を提供することを課題とする。

【0015】

【課題を解決するための手段】

本発明に係る食品用の包装袋は、重ね合わされている表フィルムおよび裏フィルムの両側縁と一端側とがシールされ、かつ他端側が包装される食品の挿入口となる開口部とされ、包装された食品を取り出す取出し面と、該取出し面の両側に屈曲した状態で連続する一

50

対の側面と、該一对の側面に屈曲した状態で連続し、かつ前記取出し面と対向する正面とが形成されるような食品の包装形態を採る袋本体と、前記一对の側面の領域の外面にそれぞれ貼着される一对の板状のプロテクタと、前記正面の領域の外面に配置されるフロントボードとが備えられ、前記一对のプロテクタとフロントボードとが一体に形成されていることを特徴としている。

【0016】

この食品用の包装袋によれば、袋本体の側面の領域に貼着される一对の板状のプロテクタが、袋本体に包装された食品に加えられる外力を受け止め、前記一对のプロテクタがフロントボードによって連結されていることにより、前記一对のプロテクタの間隔が一定に維持される。したがって、包装された食品は外力が加えられても変形することがない。

10

また、プロテクタとフロントボードとが一体に形成されることにより、プロテクタを袋本体の側面に貼着する作業効率を向上させることができる。

【0017】

また、前記袋本体は、裏フィルムに取出し面、表フィルムに正面、裏フィルムと表フィルムに跨って一对の側面がそれぞれ形成され、前記プロテクタは、前記側面の領域の内、表フィルムの外面にのみ貼着され、前記一对のプロテクタとフロントボードとは、前記表フィルムと裏フィルムとが重ね合わされている状態で、平面状態となるように構成されていることが好ましい。プロテクタが側面の領域の内、表フィルムの外面にのみ貼着されることにより、表フィルムと裏フィルムとが重ね合わされている状態で、プロテクタとフロントボードとが平面状態となるように構成することができる。このように構成されること

20

【0018】

また、前記プロテクタは、前記袋本体の側面の領域の全面に接合する大きさに形成されていることが好ましい。プロテクタが袋本体の側面の全面に接合する大きさに形成されることにより、袋本体の側面のいずれの部位に外力が加えられても、包装された食品は変形しないようにすることができる。

【0019】

また、前記フロントボードは、窓穴部が形成されていることが好ましい。フロントボードに窓穴部が形成されることにより、フロントボードが透明部材でないときに、窓穴部から包装された食品を目視することができる。

30

【0020】

また、前記フロントボードには、前記表フィルムと裏フィルムとがシールされた一端側から突出する装飾体が接合されていてもよい。装飾体は、表裏フィルムの一端側から突出することにより、消費者の目に留まるような任意の形状とし、あるいは商標、品名あるいはキャラクタなどが施される。

【0021】

また、前記袋本体の取出し面には、該取出し面を形成しているフィルムを引き裂くための切断手段が設けられていることが好ましい。切断手段によって取出し面を形成しているフィルムを引き裂き、包装されている食品を容易に取り出すことができる。

40

【0022】

【発明の実施の形態】

本発明に係る食品用の包装袋の一実施形態を図1ないし図3を参照しながら説明する。本実施形態の食品用の包装袋は、袋本体10と、一对の板状のプロテクタ20、20と、該一对のプロテクタ20を連結するフロントボード30とが備えられていることを特徴としている。

【0023】

袋本体10は従来と同様、重ね合わされている表フィルム11および裏フィルム12の両側縁11a、12aと一端（以下、「上」という。）側10aとが熱または接着剤などによってシールされ、他端（以下、「下」という。）側10bが包装される食品の挿入口と

50

なる開口部 13 としたものである。表フィルム 11 と裏フィルム 12 は、直角三角形状のサンドイッチ S を包装するため、台形状とされており、幅の細い上側 10a は帯状のシール部 14 としてシールされ、このシール部 14 と連続して表裏フィルム 11, 12 の両側縁 11a, 12a が極細にシールされることにより、密封性を有する袋本体 10 が形成されている。

【0024】

そして、袋本体 10 の下側 10b に設けられている開口部 13 を開口しやすいようにするため、例えば図 1 に示すように表フィルム 11 が裏フィルム 12 よりも短く形成され、裏フィルム 12 の下側が表フィルム 11 の下側よりも突出するようにされている（図 1 では、表フィルム 11 を裏フィルム 12 の上に重ねて描いてある。）。

10

【0025】

このような表フィルム 11 と裏フィルム 12 は、低コストで酸素バリアー性などの特性に優れた食品包装用のプラスチックフィルム、例えばポリプロピレンなどが使用され、開封性や経済性などの観点から 20~30 μm の厚さとされている。

【0026】

そして、袋本体 10 には、シール部 14 の上側の表フィルム 11 と裏フィルム 12 に突出片 15 が備えられている。突出片 15 の周囲は、熱や接着剤などによって極細にシールされている。このような突出片 15 を構成している裏フィルム 12 には逆 U 字形の切込線 16 が入れられ、切込線 16 の内側が摘み上げることのできる舌片状の摘み片 17 とされている。なお、切込線 16 の両端部はシール部 14 内に設けられてもよい。

20

【0027】

さらに、裏フィルム 12 の内面には、摘み片 17 からシール部 14 を交差して開口部 13 付近まで、裏フィルム 12 を引き裂くための細い帯状の切断手段（以下、「カットテープ」という。）19 が貼り付けられている。

【0028】

そして、重ね合わされた表フィルム 11 と裏フィルム 12 は、開口部 13 が長方形状に開口されることにより、袋本体 10 は裏フィルム 12 に長方形状の取出し面 A、表フィルム 11 に長方形状の正面 B、裏フィルム 12 と表フィルム 11 に跨って一对の直角三角形状の側面 C がそれぞれ形成される。この側面 C は、表フィルム 11 の側縁 11a と裏フィルム 12 の側縁 12a を中心に、表フィルム 11 の側部 11b と裏フィルム 12 の側部 12b とが連続した三角形状に形成されている。そして、袋本体 10 内に収納されたサンドイッチ S は、切り口が取出し面 A と正面 B に接合し、外側のパンが側面 C と接合する。

30

【0029】

ただし、表フィルム 11 の内面には、サンドイッチ S の切り口と同じ大きさの内フィルム（図示せず）が貼着されており、具材が例えばゆで卵とマヨネーズなどをミックスしたサンドイッチ S が収納されても、この具材が内フィルムに付着して、表フィルム 11 が汚れないようにされている。

【0030】

そして、本発明の食品用の包装袋は、前記一对の側面 C の領域にそれぞれ一对の板状のプロテクタ 20 が貼着されていることを特徴としている。プロテクタ 20 は袋本体 10 に包装されたサンドイッチ S に加えられる外力を受け止めるもので、サンドイッチ S を変形させない程度の剛性を有している。したがって、プロテクタ 20 は例えば 0.5mm 前後の厚さの厚紙や厚手の軟質のプラスチックフィルム、あるいは硬質のプラスチック板などによって成形される。

40

【0031】

このようなプロテクタ 20 は、例えばサンドイッチ S の側面の全体に接合する大きさの直角三角形状に形成される。そしてプロテクタ 20 は、表フィルム 11 の側部 11b の全面または一部に貼着され、裏フィルム 12 の側部 12b とは貼着されずに接合するのみとされている。

【0032】

50

このような一対のプロテクタ 20 は、表フィルム 11 の正面 B の幅と同じ幅のフロントボード 30 に連結されている。すなわち、フロントボード 30 の両側にプロテクタ 20 の斜辺 21 が連結され、フロントボード 30 によって一対のプロテクタ 20 の間隔が正面 B の幅を維持するようにされている。

【0033】

このフロントボード 30 は例えばプロテクタ 20 と同じ厚紙または厚手のプラスチックフィルムなどの材質によって、プロテクタ 20 と一体成形され、プロテクタ 20 とフロントボード 30 との境界線に折り込み線を形成し、プロテクタ 20 をフロントボード 30 から折り曲げることができるようにされている。

【0034】

また、フロントボード 30 は表フィルム 11 の正面 B に配置されるため、フロントボード 30 が紙のような透明でない材質で成形されていると、表フィルム 11 の正面 B がフロントボード 30 によって遮蔽され、該正面 B に内フィルムを介して接合しているサンドイッチ S の切り口を目視することができなくなる。そこで、フロントボード 30 が透明でない材質で形成されているときは、フロントボード 30 の中間に窓穴部 31 が形成される。

【0035】

窓穴部 31 は例えば表フィルム 11 の正面 B の幅と同じ幅の四角形とし、フロントボード 30 は一対のプロテクタ 20 の上端部と下端部でのみ、帯状に連結するようにすることにより、包装されたサンドイッチ S の中身を広い範囲で目視できるようにされている。ただし、窓穴部 31 は、円形や星形のようなデザイン性に富んだ形状とすることもできる。なお、フロントボード 30 が透明な材質で成形されているときは、窓穴部 31 を設けなくてもよい。

【0036】

そして、表フィルム 11 の正面 B に接合しているフロントボード 30 は全面または一部が表フィルム 11 に貼着され、フロントボード 30 が位置ずれしないようにされている。ただし、フロントボード 30 を連結しているプロテクタ 20 が表フィルム 11 の側部 11b に貼着されているため、フロントボード 30 を表フィルム 11 に貼着しないようにすることもできる。

【0037】

そして、フロントボード 30 の上端には突出片 15 側に突出する装飾体 40 が接合されている。装飾体 40 は、商標、品名あるいはキャラクタなどを目に付きやすいようにするため、例えば図 1 に示すような両端に半円状の突出部 41 を形成したものや、図 2 (a) に示すような吹出し状の突出部 41 を形成したもの、図 2 (b) に示すような外形を雲形に形成したもの、図示しない円筒形や凹凸などの立体的な形状など任意の形状とすることができる。

【0038】

ただし、装飾体 40 は少なくとも表フィルム 11 の突出片 15 の全面または一部に貼着される台形状または長方形の平板部分 42 を備えることにより、突出片 15 がシール部 14 で折れ曲がらず、摘み片 17 を摘みやすいようにされている。突出片 15 は重ね合わされた表フィルム 11 と裏フィルム 12 の周囲のみがシールされているため、装飾体 40 の平板部分 42 が表フィルム 11 の突出片 15 に貼着されても、摘み片 17 を摘むことができる。

【0039】

ところで、プロテクタ 20、フロントボード 30 および装飾体 40 と表フィルム 11 とは、これらの両方またはいずれか一方にのみ接着剤を塗布することによって貼着し、あるいは両面接着テープによって貼着することができる。またプロテクタ 20、フロントボード 30 および装飾体 40 が厚紙であるときは、各貼着面に熱によって貼着することができる樹脂材をコーティングし、その貼着面を表フィルム 11 に重ね合わせた状態で加熱することによって貼着するようにすることができる。プロテクタ 20、フロントボード 30 および装飾体 40 が一体成形されることにより、これらを表フィルム 11 に貼着する作業効率

10

20

30

40

50

を向上させることができる。

【0040】

以上のように構成された食品用の包装袋は当初、表フィルム11と裏フィルム12とが重ね合わされた状態において、表フィルム11にプロテクタ20、フロントボード30および装飾体40が貼着されているため、全体として薄いシート状となっている。したがって、この食品用の包装袋を製造する工場からサンドイッチSを包装する工場まで多数枚を積み重ねて効率的に搬送することができる。

【0041】

そして、サンドイッチSを包装する工場では、開口部13を開口し、一対のプロテクタ20を裏フィルム12側へ折り曲げることにより、側面が三角形の袋状の空間が形成される。このとき、表フィルム11には斜め方向の長方形の正面Bと、鉛直方向の側面Cとが形成され、前記正面Bにフロントボード30が接合し、そして側面Cにプロテクタ20が接合している。ただし、プロテクタ20は表フィルム11の側部11bにのみ貼着されており、裏フィルム12の側部12bには貼着されず、重ね合わされているのみとなっている。

10

【0042】

そして、前記空間内にサンドイッチSを収納し、サンドイッチSの底面から突出している表フィルム11と裏フィルム12とを折り込み、粘着テープ（図示せず）などによって封緘することにより、サンドイッチSが包装される。このとき図3に示すように、プロテクタ20が表裏フィルム11, 12を介してサンドイッチSの側面全面に接合し、フロントボード30が表フィルム11および内フィルムを介してサンドイッチSの切り口に接合し、前記プロテクタ20の間隔を一定に維持している。

20

【0043】

したがって、包装されたサンドイッチSの側面が把持されるなどして外力が加えられると、一対のプロテクタ20には間隔を狭めようとする外力が加えられる。しかし、一対のプロテクタ20は、フロントボード30に連結され、フロントボード30の幅の間隔よりも狭くならないため、その外力はサンドイッチSに加えられることがなく、サンドイッチSは変形することがない。

【0044】

さらに、サンドイッチSの角部が収納箱のエッジなどに勢いよく突き当たるなど、サンドイッチSの角部に外力が加えられても、プロテクタ20は表裏フィルム11, 12を介してサンドイッチSの側面全面に接合し、プロテクタ20の外周とサンドイッチSの角とが一致していることにより、サンドイッチSの角部は変形することがない。

30

【0045】

また、フロントボード30が紙製の場合は、窓穴部31が形成されているため、窓穴部31からサンドイッチSの中身を目視することができる。ただし、フロントボード30に接合された装飾部にサンドイッチSの種類などが表示されているため、窓穴部31からは、内容物の量や質などを確認することができる。

【0046】

そして、包装されたサンドイッチSを食するときは、裏フィルム12の突出片15に設けられた摘み片17を摘んで真っ直ぐ下方方向に引っ張る。表フィルム11の突出片15には装飾体40が貼着され、突出片15が折れ曲がった状態となっていないため、摘み片17は摘みやすくなっている。摘み片17が下方に引っ張られると、上端部が摘み片17に貼り付けられているカットテープ18により、裏フィルム12の取出し面Aはシール部14から下方に引き裂かれ、変形していないサンドイッチSを取出し面Aから取り出すことができる。

40

【0047】

本発明は、前記の発明の実施形態に限定することなく、特許請求の範囲に記載した技術的事項の範囲内において種々変更することができる。例えば、表フィルム11および裏フィルム12は、直角三角形形状のサンドイッチSを包装するために台形状の場合について説明

50

したが、包装される食品の形状に対応して四角形状などとすることもできる。

【0048】

また、プロテクタ20は表フィルム11の側部11bにのみ貼着される大きさとし、表フィルム11と裏フィルム12とが重ね合わされている状態で、プロテクタ20が表フィルム11の側縁12aからはみ出さないようにすることもできる。さらに、プロテクタ20が紙製である場合は、窓穴部を形成し、プロテクタ20側からも包装された食品を目視できるようにしてもよい。

【0049】

逆に、包装される食品がサンドイッチSではなく、カステラのような中身を目視する必要のない場合は、フロントボード30が紙製であっても必ずしも窓穴部31を形成する必要はない。

10

【0051】

そして、発明の詳細な説明において説明した上下の位置関係は、図示した場合の位置関係であって、実際の上下の位置関係とは異なる場合があることはいうまでもない。

【0052】

【発明の効果】

本発明によれば、食品が収納される袋本体の一对の側面の領域に一对の板状のプロテクタが貼着され、該一对のプロテクタがフロントボードに連結されていることにより、包装された食品に外力が加えられても、前記プロテクタが外力を受け止め、一对のプロテクタの間隔がフロントボードの幅に維持され、包装された食品を変形しないようにすることができる。したがって、包装された食品は商品価値が低下せず、売れ残りなどが生じないようにすることができる。

20

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態を示す食品用の包装袋の正面図

【図2】(a)(b)それぞれ本発明の一実施形態の食品用の包装袋を構成するプロテクタの変形例を示す正面図

【図3】本発明の一実施形態を示す食品用の包装袋の斜視図

【図4】従来の食品用の包装袋の正面図

【図5】従来の食品用の包装袋の斜視図

【図6】従来の食品用の包装袋によって包装されたサンドイッチの斜視図

30

【符号の説明】

10…袋本体

10a…一端側

10b…他端側

11…表フィルム

11a…側縁

12…裏フィルム

12a…側縁

14…開口部

20…プロテクタ

40

30…フロントボード

31…窓穴部

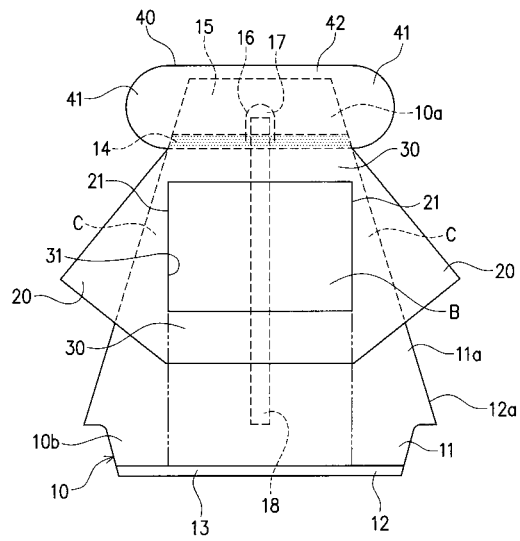
40…装飾体

A…取出し面

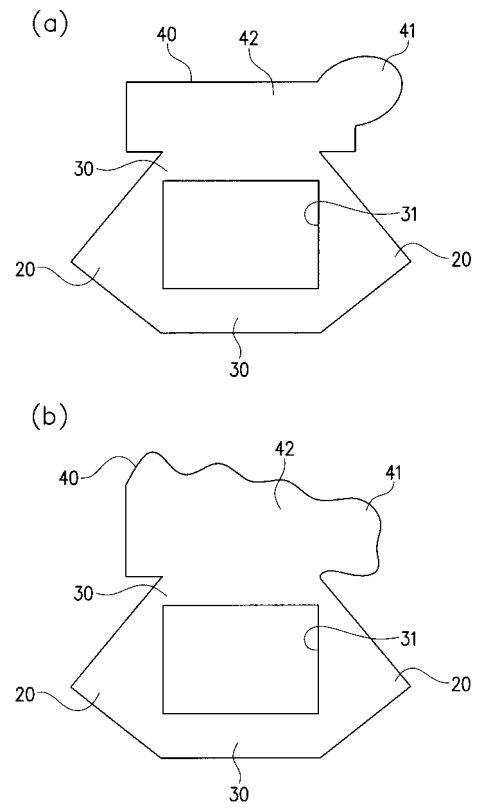
B…正面

C…側面

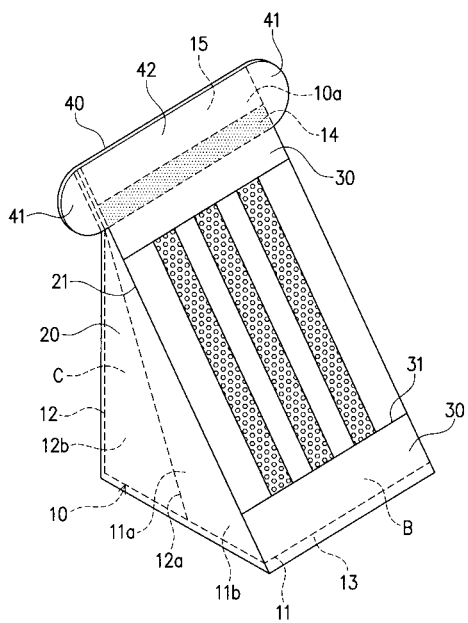
【図 1】



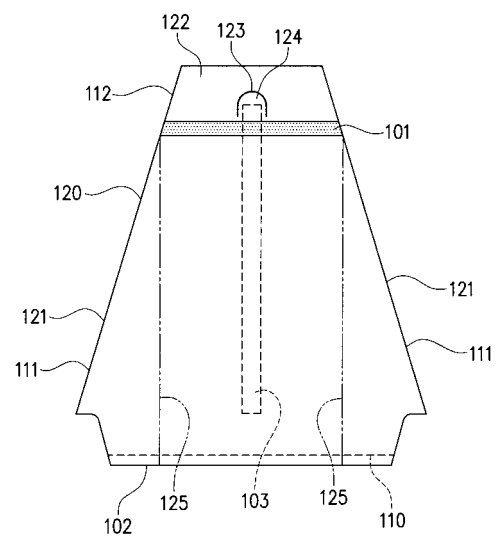
【図 2】



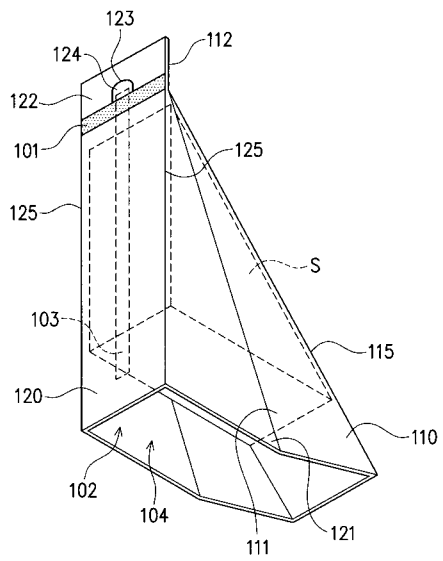
【図 3】



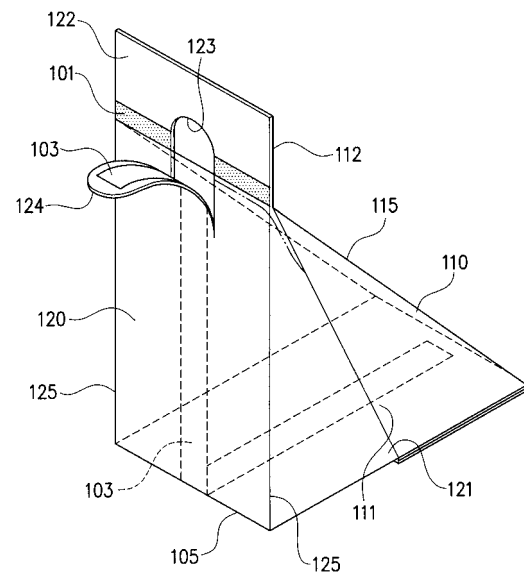
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

審査官 柳田 利夫

- (56)参考文献 特開平11-301698 (JP, A)
特開平05-221459 (JP, A)
特開2000-335597 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D 77/00
B65D 33/00
B65D 33/02
B65D 85/36